平成 29 年度

農商工等連携推進事業まとめ



実施事項

- 1. 連携フォーラムの開催
- 3. モデル事業の実施

- 2. 連携部会の開催
- 4. 広報誌の発行

概要

2年目にあたる平成29年度は、農商工連携を広くPR・認知促進を図る連携フォーラムや広報誌。 モデル事業を継続するとともに、各主体の課題とニーズの共有、新たなアイデアを検討する連携 部会を立ち上げることで、具体的な情報共有や交流につながった。

1. 連携フォーラムの開催

農商工等連携の推進を PR し、連携の機運を高めることを目的としている。 農業をテーマに多様な主体が出会い、交流する場として開催した。

第4回連携フォーラム

平成29年11月27日(月)@川崎市総合自治会館

第1部 フォーラム

- ■パネルディスカッションの実施(農業×商業)
- テーマ:「農業」×「商業」の可能性について コーディネーター: 竹本田持(明治大学教授)
- パネラー:木所浩美氏、布施千治氏、茶野佐知氏、
 - 石井秀和氏、大野孝将氏
- ■第1回連携部会の開催報告(農業×工業)
- ■モデル事業の実施状況報告

第2部 交流会

・名刺交換会、パネル展示、野菜等の展示販売



▲交流会の様子



▲展示販売の様子

第5回連携フォーラム

平成30年2月9日(金)@宮前市民館

第1部 フォーラム

- ■モデル事業の実施報告
- ■第2回連携部会の開催報告(農業×商業)
- ■パネルディスカッションの実施(農業×市民)

テーマ:市民と牛産者がつくる川崎の都市農業 コーディネーター: 佐々木順平 (㈱フードビート) パネラー:伊藤昇氏、澁谷直子氏、清水まゆみ氏、

山本美賢氏、松村一平氏

第2部 交流会

· 名刺交換会







▲モデル事業報告の様子 ▲パネハトディスカッションの様子 ▲連携部会報告の様子

2. 連携部会の開催

農業者や工業者の困っていること・やってみたいことを情報共有し、その課題解決 やアイデアの実現性について話し合い、連携のために具体的な検討を行った。

第1回連携部会 農業×工業

平成29年8月22日(火)@都市農業振興センター



▲話し合いの様子

テーマ:農業と工業の連携による 都市農業活性化に向けた可能性

参加者:計31名(農業関係者8名、 工業者5名、関連事業者2名、3-元 ィネーター・事務局・オブザーバー等)

第2回連携部会 農業×商業

平成30年1月26日(金)@都市農業振興センター



テーマ:農業と商業の連携、福祉 農業が抱える課題について

参加者:計32名(農業関係者7名 工業者7名、福祉関連11名、コーデ ィネーター・ 事務局・オブ ザ -バ -等)

▲発表の様子

3. モデル事業の実施

市の公募及び審査会によりモデル事業が採択され、農業者が多様な主体と連携する ことにより、都市農業の可能性を広げることを目的としている。

じもとクリエイターによる 「かわさき農のマナー UP」

プロジェクト

農業×デザイン

新規

株式会社 ノクチ基地

■実施事項

都市農業が抱える課題の1つである 「農へ対する不法行為」の存在に注目 し、課題解決に導くためのポスターを「決として、先進事例の研究・福祉施 地元クリエイターと協力し、製作した。設による農作業トライアル・特別支 また、都市農業を知ってもらうための土援学校の授業への組み込み等の活動 小冊子等も製作した。



盗難編

不法投棄編

▲都市農地へのマナー UP ポスターの制作

また、関連コンテンツとして「まちの 畑に親しもうブックレット」と Web サイトの制作も行い、より多くの地域 の人に畑を知ってもらえるような取組 を行った。



▲「まちの畑に親しもうブックレット」から抜粋

遊休農地の活用と

障がい者の雇用創出

農業×福祉

有限責任事業組合 次世代農業・食品循環研究所 (村西 明氏) (元木 悟氏)

■実施事項

昨年度から引き続き、障がい者の雇 用促進と担い手確保に向けた課題解 を実施した。

具体的には支援学校と養護学校の生 徒が農地に出向き畝作りから植え付 け、収穫の流れを体験した。また、 援農ボランティアと連携することで、 学校との連携も図れ、円滑な取組を 実施することができた。

昨年と比較して参加人数や作業場所 を増やすことができ、充実した取組 を実施することができた。

また、障がい者と農作業の親和性が 確認でき、農業者の協力のもと知的 障害のある人でも作業できる仕組み を検討することができた。



▲農作業トライアルの様子

アスパラガスの新栽培法

「採りっきり栽培®」



明治大学 農学部農学科 専任准教授

■実施事項

昨年度から引き続き、栽培が難しいア スパラガスのための「採りっきり栽培 と称した新しい栽培法を普及させ、地 域を活性化させるための取組を行っ

今年度は17名の農業者と協力し、試 験栽培を行った。試験栽培だけでなく、 栽培・販売戦略講習やモデル圃場の設 置、勉強会等も行うことで、市内での 普及に努めた。また、黒川地区では水 田転換も多くあり、水田転換畑でも対 応可能なのかを実証するために同時期 に整備したが、上手く栽培することが できた。



1 2 1

▲モデル匍場の様子



・今年度のモデル事業の成果報告

▲勉強会冊子

4. 広報誌の発行

都市農業活性化に関する農商工等連携推進事業の取組を、 広報誌を通じてより多くの人に周知することを目的に年2回発行した。

1 回目: 平成 29 年 12 月号





■1000 部発行

概要

- ・これまでの取組と今後の予定
- ·第1回連携部会開催報告
- ・第4回連携フォーラム開催報告
- ・今年度のモデル事業について

2 回目: 平成 30 年 3 月号

